

平成23年度中間期の営業の概況(連結)

金融経済情勢

当中間期のわが国経済は、前半は東日本大震災の影響による供給面の制約から生産活動が停滞し、輸出が大幅に落ち込みましたが、後半には生産施設やサプライチェーンの急速な復旧により、生産や輸出は概ね震災前の水準まで持ち直しました。

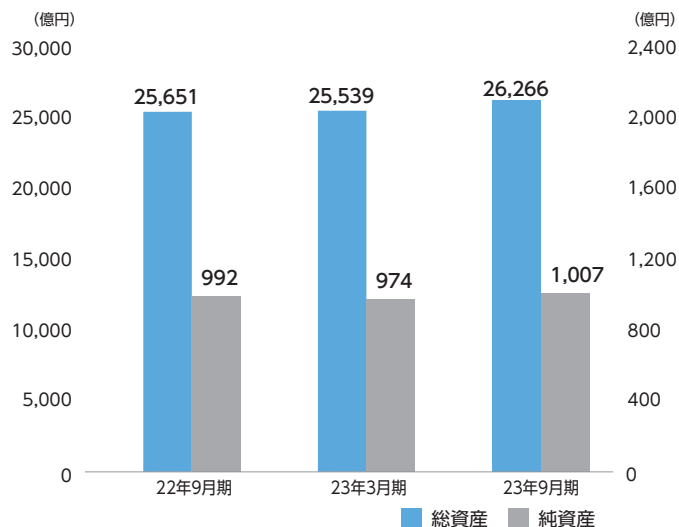
当行の主要地盤であります四国地区の経済は、前半は緩やかな持ち直しの動きが続きましたが、後半には生産活動が足踏み状態となり、横這い圏内の動きとなりました。

金融面では、4月に85円台の動きもあった円・ドル相場は、欧州の財政問題による世界経済の減速懸念が強まったこと等により円高が進行し、9月末には76円台となりました。また、一時1万円台の動きもあった日経平均株価は弱い動きとなり、9月末には8千円台まで下落しました。一方、長期金利は、4月の1.3%台から9月末では1.0%台へと低下しました。

決算の概要

経常収益は、貸出金利息や有価証券利息配当金の減少等により資金運用収益は減少しましたが、貸倒引当金戻入益の計上等によるその他経常収益の増加等により、前年同期比3億18百万円増加し261億46百万円となりました。経常費用は、貸倒引当金繰入額の減少によるその他経常費用の減少等により、前年同期比16億3百万円減少し205億33百万円となりました。この結果、経常利益は、前年同期比19億20百万円増加し56億12百万円、中間純利益は、前年同期比10億37百万円増加し35億90百万円となりました。

● 総資産額と純資産額



● 経常収益



● 経常利益と中間純利益

